

品井沼など天然池沼の変遷、

NPO 法人シナイモツゴ郷の会 三浦 仁一

1. 仙台平野の概要

日本には 100 を超す一級河川水系があり、それが海に注ぐ下流域では河川の流れて氾濫原が出来たり海岸付近で三角州が形成される沖積平野が広がっているのが一般的である。

宮城県には 4 つの一級河川水系が関係しており、そこで形成された平野の面積は東北で最も広いといわれている。それらの下流域には低湿地も多く明治・大正時代の湿地面積について、実数で見ても約 62 km²と本州では青森県について 2 番目の広さとなっている。本会の活動拠点となっている北部地域の仙北平野にも北上川と鳴瀬川の 2 つの一級河川水系が展開されているが、特に北上川は岩手、宮城の両県に跨る幹線流路長及び流域面積でも 10 本の指に入る大河川に数えられており多くの湿地や池沼が存在していた。

2. 北上川などの整備と池沼の減少

北上川本流は、本県に入ってから一旦西に流れ迫川と合流後、蕪栗沼から再び石巻方向に流れ太平洋に注いでいたが、慶長以前から幾多の整備改修を経て現在の姿となっている。



引用略図：北上川下流河川事務所 H. P

支流である江合川の他、鳴瀬川などの整備の進展にとともに流域における新田開発も進み、結果的に池沼の数は半分以下、面積は東京ドーム 900 個をやや上回る程度の約 1/4 まで減少していった。

消滅・減少は時の施策によるもので、その基本となった河川法及び土地改良法はそれぞれ平成 9 年、平成 13 年に改正され、それまでハードや手続き主体であったものから環境への取組が加えられ整備が進められている。

引用文献

- 1) 宮城県土地改良史編纂委員会 (2009) 宮城県土地改良史 (追補版)
- 2) 北上川下流河川事務所 (H. P.) 北上川の概要と歴史 外

